

Windows Vista (4)

検索機能をもう少し。ファイルにはいろいろな情報を設定することができます。あまり使っていないかもしれませんが例えばwordのプロパティを見るとタイトル、サブタイトル、作成者、管理者、会社、分類、キーワード、コメントなどがあります。これらのものが検索の対象となるのは同じマイクロソフトですからもちろんですが、他社製のアプリケーションであっても仲介するプログラムが多数公開されていて検索対象に組み込むことができるようになってきています(もちろんデータを設定しなければ意味がありません)。WindowsXPでも「Windowsデスクトップサーチ」というアプリケーションをダウンロードしてインストールすれば同様のことができるようですが、Vistaでは組み込まれることとなります。見え方として新しいのはフォルダーの自動分類機能です。1つのフォルダ内の例えばファイルの種類ごととすればどのようなものがあるかまとめて表示します。他に仮想フォルダー機能といって、条件にあったものを実際のファイルの位置はそのままに、仮想的に1つのフォルダに集めて表示するという機能もあります。仮想フォルダには検索条件を設定することができますからフォルダを開くたびに自動的に集めて表示されることとなります。このように検索が特徴ですが、Vistaはこれを高速に処理するためにインデックスを作っています。新しくファイルを作ったりするたびにこのインデックスが更新されいつでも検索できるようになっているばかりではなく、インデックス化したくないファイルを設定し検索対象から除外することもできます。

次に強化された機能として管理者権限があります。XPでも管理者ユーザと一般ユーザがあり、一般ユーザの場合プログラムのインストールが制限されていましたが大体のユーザが管理者モードのため制限されていなかったのが現実です。Vistaの場合は管理者であってもプログラムのインストールが制限され、そのままインストールされるのではなくインストールの「許可」を求めてきます(標準ユーザの場合は管理者パスワードの入力が必要です)。

セキュリティも強化され、スパイウェア対応として「WindowsDefender」が搭載され、常時監視・検出・削除できるようになりました。管理者が標準ユーザの操作を制限する「保護者による制限」機能があり、利用できる曜日、時間帯、利用できるゲーム、特定のアプリケーションなどを制限することが出来ます(さらにどこのWebサイトにアクセスしたかの活動レポートをみることが出来る)。

最後のついでにほぼ同じ時期にリリース予定のOffice2007についてです。いまだにOffice2000を使っている実にとってはしみじみ思うこととして多機能化に対処できていないことがあります。マイクロソフトの資料として最初のWordのメニュー項目が50ほどであったものがword2003で300近くになっているそうです。なんだか宝の持ち腐れのようなのですが今度のOfficeでは「コマンドタブ」が採用され、これまでツールバーの設定でアイコンを表示していたものをタブ(現在のメニューと同じ位置)をクリックすることにより関連するアイコンがその下に表示されるようになってきています。タブごとにアイコンが切り替わるため1つ1つが大きくわかりやすくなっています。つまり必要ときに必要なものだけを表示することになります。それとファイル形式が「XML」になります。これまで1つのデータであったものを情報本体、プロパティ、バイナリデータなどそれぞれをパーツ化しまとめてZIPで圧縮したもので、さまざまなアプリで活用することができます。

(次回へ続く)

(今週の情報誌から)

○日経エレクトロニクス 5月8日号

特集 車は無線で安全になる

→車を取り巻く環境は厳しくなっている。環境問題と交通事故問題。このうち交通事故に対しては車単体での対策は限界を向かえ、対応できるインフラ整備が進んでいる。そのキーとなるのが無線通信で、周りの状況データの交換ばかりでなく車間での情報交換が重要になってくる。日本はいち早く次世代の無線通信規格を確立し世界に提案していかなければならない。

○日経パソコン 5月8日号

特集 あなたの「秘密」を守ります

→情報流出が続く現在。人間はミスするという立場に立って「漏れても安心」の環境をどう作っていくか。キーワードは「盗まれる」、「紛失する」、「捨てる」、「侵入される」、「覗かれる」。それよりも自分のデータはどこに何があるのかを十分把握することがまず一歩。